

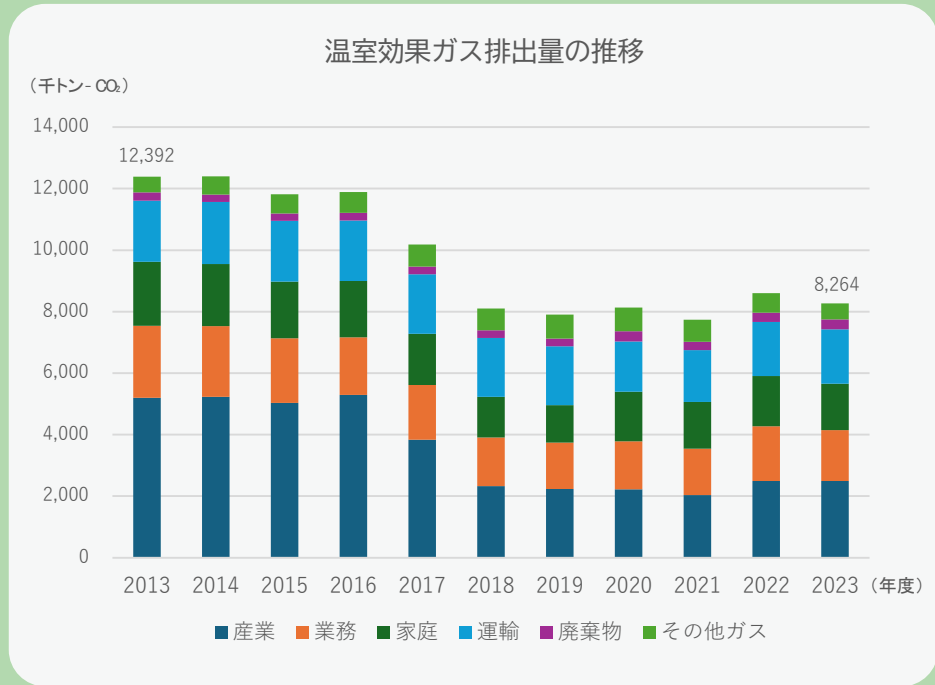
Chapter 03



神戸の環境の現状

地球温暖化対策

- 2023年度の温室効果ガス排出量は8,264千トン-CO₂となり、2013年度から33.3%減少しており、2018年度から2023年度にかけては8,000千トン-CO₂前後で推移しています。
- 温室効果ガス排出量のうち、電力、ガス、石油などのエネルギー消費により排出する二酸化炭素が約9割を占めています。残りは廃棄物の処理や、工業プロセスで発生する二酸化炭素、その他のガスとなっています。

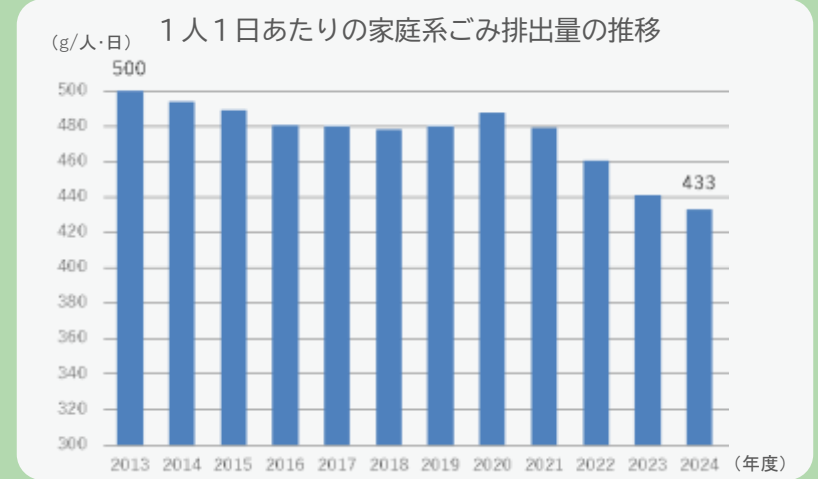


課題

2050年の二酸化炭素排出実質ゼロに向けて、省エネルギーの更なる徹底や、再生可能エネルギーの最大限の導入、新たな技術開発等あらゆる分野での取組が必要です。

ごみの減量・資源化

- 2024年度の、市民1人1日あたりの家庭系ごみ排出量・事業系ごみ総排出量は、2013年度から減少傾向にあります。



課題

持続可能な循環型社会の実現に向けて、紙類やプラスチックなど更なるごみの減量やリサイクルに、市民・事業者・行政が連携して取り組むことが必要です。

Chapter 03



神戸の環境の現状

「自然環境」

- 2020年度時点で、「神戸で見られる生きもの種数」は7,999種を維持しています。
- 「今は見られない神戸の生きもの種数」は、2015年度から増加しています。
- 市内各地で外来種が野外に定着しています。もともと神戸に生息・生育していた生きものに大打撃を与えてしまうものは、侵略的な外来種として特に問題になっています。
- 生活様式の変化や、耕作放棄地の増加等により、里山の生物多様性の衰退が懸念されています。

〈今は見られない神戸の生きもの〉



ムラサキセンブリ

〈特定外来生物の例〉



アカミミガメ



アメリカザリガニ

〈北区山田町の里山〉



課題

- 生物多様性保全の担い手が高齢化しており、新たな人材の確保が必要です。
- 木材利用や体験の場としての活用など、里山資源を活用することにより、里山の維持・管理を持続的なものとする必要があります。

「環境保全」

- 大気質は、総じて良好な状態を保っていますが、光化学オキシダントは環境基準を達成しておらず(全国的にもほぼ未達成)、濃度は横ばいの状況が続いています。
※2026年1月30日に、光化学オキシダントに係る環境基準が改定されました。
- PM2.5の濃度は、2012年度より緩やかな減少傾向にあります。その他の有害大気汚染物質、ダイオキシン等も基準等を下回っています。
- 水質は、生活排水対策の推進、工場・事業場に対する規制等により、一般的に良好な状態で推移していますが、須磨から垂水にかけて、兵庫県条例で「望ましい栄養塩類濃度」として定めている窒素の下限値を下回っている地点があります。
- 道路交通騒音・振動は、概ね基準を下回っています。
- 「神戸市ぼい捨て及び路上喫煙の防止に関する条例」の運営や、市民・事業者との協働によって、まちの美化を推進しています。



課題

- 光化学オキシダントや、PFASなどの有害化学物質について、国が実施している発生起源・メカニズムの解明の動向を注視していく必要があります。
- 瀬戸内海では、ノリの色落ち等が問題となっており、りん、窒素などの栄養塩類管理に努めていく必要があります。